

『幻聴妄想かるた 解説冊子+ CD「市原悦子の読み札音声」+
 DVD「幻聴妄想かるたが生まれた場所」付』

精神看護学や地域看護学 でぜひ活用したい素材

編著：ハーモニー（就労継続支援 B 型事業所）
 定価：2,415 円（本体 2,300 円＋税 5%）
 発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



実際にかるたを手にとってみました。私のお気に入りには、「先生『それは妄想です』 僕『いやレパシーだ』」。この会話は、自分が精神科看護師だった頃にさんざん見かけた光景です。自分たちが患者さんたちの現実を見ていないことがよくわかる場面だと思います。また、「眠れない日が続くと 聞こえてくるジェットエンジン音」と「脳の中に機械が埋め込まれ しっちゃかめっちゃかだ」の札からは、患者さんの症状の不快さが伝わってきます。今まで私たちは医療者の現実から患者さんの幻聴妄想を推し量っていましたが、この「かるた」という短い文面によって、患者さんの現実がズバリと自分の思考に入ってきました。

では医療関係の学校で、このかるたを教材として使うとすれば、どのような効果があるでしょう。1つは、ハーモニーという施設でこのかるたを製造・販売した経緯を紹介することで、学生が当事者の「社会での生活」について考える機会になります。多くの社会復帰施設では、職員が必死な思いをしながら地域から内職の仕事をもらい、当事者がそれを細々と行い、しかも時給が極端に安いという現実があります。しかしハーモニーは、そうした仕事のあり方から発想を変え、当事者たちが自分たちの幻聴妄想を資本に、かるたという商品にしてお金を稼ぐという形を取りました。実際『幻聴妄想かるた』は製造した 2008 年当初から

評判となり、500 部を販売してきたといいます。こうした商売のあり方から、精神の病をかかえた人たちが地域で生活するという意味を考えることができます。

また、DVD に収録されている当事者とスタッフとのやり取りを自分たちの精神障がい者のイメージと比較し、「生活者としての精神障がい者の存在」について検討できます。

かるた本体の使い方として、学内での講義では、看護過程展開での活用が有効だと考えます。今までは、紙上患者の状況をあらかじめ作成し、設定された筋書きにそって考えをまとめていました。しかし、このかるたを使い、各札から考えられる当事者の状況を学生がイメージし、看護の対応を考えていくことで、通常の事例展開では得ることができない、当事者の現実に対応する看護の思考を養っていきけるのではないかと考えます。

臨地実習では、患者さんと一緒にかるた大会を行いたいと思います。札の紹介をし、かるた大会を行い、札を取るたびに、内容についてワイワイと話しながら患者さんがかかるたから何を感じたのかを確認していくことで、学生にはいろいろな学びが期待できます。

この『幻聴妄想かるた』は、調理の仕方によって、さまざまな味わいを得ることができる、優れた学校材料だと感じました。